

令和7年度第1回倉敷市国民健康保険運営協議会議事概要

1 日 時 令和7年10月9日（木）午後2時～午後3時

2 場 所 倉敷市役所3階 議会特別委員会室

3 出 席 者

【委 員】榎谷委員、大熊委員、齋藤委員、諏訪委員、妹尾委員、
岡委員、加藤委員、長尾委員、三浦委員、柚木委員、
太田委員、生水委員、竹中委員、藤原委員、宮崎委員、
田房委員

【事務局】生水副市長、月本参与、友杉次長、則本課長代理、
山脇課長主幹、池上課長主幹、山根主幹、中西主幹、徳田主幹、
長谷川副主任、宗重主事、江口主事

4 議事

- （1）本市国民健康保険の状況
- （2）令和6年度倉敷市国保特別会計の決算状況
- （3）本市国保料率の現状と財政見通し
- （4）本市国民健康保険事業における取組
- （5）今後の制度改正について

5 議事の経過

- 事務局より、令和6年度国保特別会計の決算状況、国民健康保険のこれまでの状況と今後の見通し、国民健康保険事業における取組、今後の制度改正について説明を行い、その後、質疑応答が行われた。

（以下、主な意見等）

- 委 員：倉敷市の特定健診受診率は、県平均や全国平均と比べて少々低いが、受診率向上のための取組のうち、診療情報提供に係るみなし健診について、具体的な手順や方法はどのようなものか。

→事務局：通院中の国保被保険者のうち、医療機関において特定健診に近い検査を受けている方へ検査結果の提供を依頼する通知を市から送付している。通知を受け取った被保険者は、その通知一式を医療機関に持参する。本人の同意の下、検査結果を医療機関から市に提供していただき、その結果をもって特定健診を受診したとみなすもの。

○委員：医療機関や医師に対し、制度の周知などを行っているか。

→事務局：9月末頃に、制度の案内や手数料の請求書様式などを医療機関に送付している。
また、保健協議会において医師会に協力をお願いしている。

○委員：機会を捉えて地域住民に声かけを行うことも大切かと思う。様々な機関と一緒に取り組み、受診率の向上につながるとよいと思う。

○委員：保険料水準統一について、岡山県では、納付金ベースの統一が令和8年度から段階的に実施されることに伴い、影響緩和措置を創設することのだが、倉敷市は対象となるのか。

→事務局：この影響緩和措置は、医療費水準を反映させない納付金算定への段階的な移行に伴い、著しく納付金の負担が増加する市町村（医療費水準を低く抑えている市町村）に対する財政支援であるが、倉敷市がその対象となるかどうかは今のところはっきりと申し上げられない。ただ、一人当たり医療費は低いものの、医療費水準としては、倉敷市は平均より少し低いレベルのため、緩和措置の可能性は低いとみている。

○委員：医療費水準には、その地域にどれくらい医療機関があるかということが反映されているものなのか。

→事務局：医療費水準とは、年齢構成を踏まえた市町村によって異なる医療費のことであり、医療機関の数が医療費水準の計算に入っているわけではない。

○委員：令和7年度から保険料納付方法にd払いとauPAYが新たに加わり、市民の利便性は向上したと思うが、これらの手数料負担はどの程度なのか。

→事務局：現在の納付方法うち、手数料が一番低いのは口座振替で、一番高いのはコンビニ収納である。

○委員：今後、保険料収入が減少していく中で、市が払っている手数料のうち高いものはやめて、収納チャネルを絞っていくことも支出を減らすという視点では必要かなと思う。

→事務局：税では、手数料が比較的低いeLTAxという公金収納が始まっていて、保険料等も来年9月以降順次展開される。

被保険者にとって便利な収納方法は採用しつつ、コストが低い口座振替の利用を促進するなどして、保険料の収納コストを下げていく努力はしてまいりたいと思う。

○委員：色々な支払方法を導入したことにより、収納率はどの程度変化しているのか。

→事務局：コンビニ収納とスマートフォン決済に限っていえば、どちらも令和4年度に導入しているが、令和4年度以降の収納率は微減となっている。同じ時期に、比較的収納率が高い団塊の世代がどんどん後期高齢者医療制度に移行したこと

も影響している。そういった要因もあり、納付しやすい環境整備が収納率向上に直結していない状況ではあるが、被保険者の利便性向上という側面でも評価いただきたい。

(以上)